

## A グループ（健康・医療）

### ご意見

- ・ 感染拡大防止の対策
- ・ 個人が健康管理を心掛け、体調不良の際には職場等で休みやすい環境づくりに努める
- ・ 手洗い、うがいの励行                      ・ マスクの着用                      ・ 予防接種の奨励
- ・ 免疫力をつける食事の紹介
- ・ 免疫力を高める（運動、食事、ストレスなど）
- ・ 学校教育における「食育」に感染症対策を取り入れる
- ・ 市民に対する、特に高齢者を対象とした「健康づくり講座」の中に「感染症対策」を取り入れる。
- ・ 公民館等を活用して市民に対する健康講座の場の提供と機会の増加を図る。
- ・ 市内、県内、国内の感染状況がすぐ分かり（HP 等）、防止にあたって一人一人が具体的に取り組むことを啓発
- ・ コロナウイルス専門の医療体制を作る
- ・ 健康診断、健康相談（特に）が身近な医院等でも手軽に受けられる医療体制整備
- ・ ワクチンが開発されたあとは、保険が適用される等の医療補助

## B グループ（協働・コミュニティ）

### ご意見

- ・手洗い・マスク・検温を徹底させる
- ・オンラインでの交流方法の検討
- ・オンラインで人をつなげていく環境をつくること。（ネット環境の整備も含め）
- ・コロナ差別や偏見を許さない啓発の充実
- ・感染予防はもちろん取り組むが、「誰もが感染する可能性があること」が認識され、「感染しても大丈夫、迅速に検査や医療が受けられる上尾市」であることが大事。感染しても差別や偏見にさらされず、職場や学校に戻っていける上尾であってほしい。医療機関の受け入れやPCR検査機能の充実、濃厚接触者が家庭以外で過ごせる場の拡充が重要
- ・フィジカルディスタンスを取りながらも気持ちの距離は遠ざけない
- ・今までの公民活動とは違う事を自覚
- ・自宅で各自作業（作成・練習等）を行い、集合での回数を減らす
- ・集まりを企画する場合、より広めの場所を設定する（蜜を避ける）
- ・リレー形式で行えるようにする
- ・クラスターが発生した場合を考え、必ず連絡先を確認（個人情報を守る）
- ・市内感染状況の適切な情報発信
- ・高齢者独居世帯への見守り
- ・グループホームや入所施設に暮らす人とその支援者は、より積極的にPCR検査が受けられるような仕組みが必要

## C グループ（行財政運営）

### ご意見

#### 【行政運営】

- ・ 行政手続きのオンライン化の推進（市民からの申請など）
- ・ 突発的かつ非常時における市民サービスの臨機応変の組織体制の強化
- ・ 情報セキュリティの再強化策の随時見直し
- ・ 体面を避ける為の行政サービス提供方法を常に考える
- ・ 財政運営を考える上で、教育から介護までより一層 IT 化を進める
- ・ 工業・農業・住宅環境含め。上尾独自のコロナ対策特区を新設する
- ・ 行政人材確保と育成（緊急時の対応には人員人材は欠かせない）
- ・ 市民参加型連帯運動の企画推進（安全、安心の基本 緊急事態の連携、日頃から地域に併せた防災体制とふれあいのコミュニティを作る。）

#### 【公共施設】

- ・ 利用者のソーシャルディスタンスの確保（3密回避のための対応。ソフト・ハード両面で）
- ・ 公共施設のみならず全ての場所で、3密を避ける対策をとる

#### 【その他】

- ・ 企業支援 誘致や起業家への門戸開放（イノベーション企業への支援、社会インフラとして存続している企業への支援を通して上尾の存続価値を高めていく）
- ・ デリバリー、持ち帰りのための専用サイトの構築
- ・ 商業施設・公共施設での遠隔体温測定装置導入
- ・ 重症化リスクを減らすため、高齢者向け体力増強プログラム拡充
- ・ 市内ウォーキングコースの設定と PR（「あぴぽ」で点数化）

## D グループ（防災・防犯・交通安全）

### ご意見

#### 【防災】

- ・新しい避難所運営
- ・避難施設・防災倉庫でのマスク・消毒薬・検温器の備蓄増加
- ・避難所でのパーテーション設置
- ・体育館等の施設で吸排気設備の導入。または、サーキュレータ等を複数台設置して吸排気
- ・ソーシャルディスタンスに配慮した避難所の設計
- ・避難所における対策（3密を防ぐ）自宅や親せきの家に避難も検討
- ・複合災害に対応できるように避難所のあり方を考える。仮称（救援センター）など
- ・災害時（水害）に避難前にすでに感染者がいた場合、他の地域や広域避難、親戚や友人宅に避難することは、感染拡大を考えると非現実的なのでは無いか

#### 【防犯】

- ・店舗休業中における窃盗被害等の防止  
防犯カメラのリモート化、管理システム強化
- ・巣籠もりでも、決まった時間に買い物や外出をしない。狙われやすい

#### 【交通安全】

- ・あおり運転などの（車、自転車）の講習会
- ・スマートモビリティの推進

#### 【その他】

- ・新しい生活様式を柔軟に活用し、更に上尾市独自の基準を構築する。
- ・各自治区の専属スタッフが行政と新たな感染者など情報をやり取りするシステムを構築（ただ、個人情報の取り扱いは慎重に）
- ・事業者の経済活動を消費者が支える  
感染症対策を実施しているお店、テイクアウトやデリバリーをしているお店、地元食材の販路拡大を目指す事業者の動き等の情報を消費者に発信
- ・自粛の結果、心身の活力低下。健康二次被害予防策の実施
- ・生活困窮者への相談体制の整備

## E グループ（福祉）

### ご意見

- ・ コロナと共存、徹底した対策（科学的、合理的に）
  - ・ オンライン化の徹底
  - ・ ストレスへの対応
  - ・ 夏場、マスクをつけての熱中症に気を付ける。また、どうしたらよいかの指導
  - ・ 外出が出来ず、体力が低下しないために、軽い体操等を発信する。（動画の配信）
  - ・ コロナによる失業者を積極的に福祉や介護の仕事へ結びつけることができないか
- 個別に相談ができる人的、資金的支援を行い、可能であればマッチングまでする。
- 現場での研修などへも資金的援助ができれば、なお可。
- 職住接近の人が増えることにつながればいいと考える。

## F グループ（都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園）

### ご意見

#### 【都市基盤】

- ・ 上尾道路沿道の生活道路と住環境の整備を急ぐ
- ・ ネットワークインフラの増強 通信回線整備（高速通信回線）

#### 【公共交通】

- ・ 交通手段の分散化（徒歩、自転車、公共交通）
- ・ 公共交通機関のリモート（スマートモビリティ）
- ・ 時差通学、通勤
- ・ 徒歩や自転車の利用
- ・ 3密回避に伴う自転車利用の一層の推進（自転車道の整備、自転車利用PR）
- ・ 自転車の街キャンペーンは継続するのか？

もし継続するのであれば、with CORONA を考慮し道路/駐輪場の整備、何故今自転車か？を含め、根本的に取り組みを考える必要が有る

#### 【環境】

- ・ 資源リサイクル増加・ごみ削減への取り組みへの比重を高める
- ・ 非常時におけるごみ収集回数の強化

#### 【緑地・公園】

- ・ グリーン・リカバリーの推進

※新型コロナウイルスによってダメージを受けた社会・経済を、パリ協定やSDGsと整合した、脱炭素で、災害や感染症にレジリエント(強靱)な社会・経済に、そして生態系と生物多様性を保全するようなグリーンな復興を目指す

- ・ 個人所有地を含めた、土地の有効活用と市民が自由に入れる大規模緑地を整備する
- ・ 公園等利用者へのコロナ対策啓発
- ・ 集団での公園利用は避ける

#### 【その他】

- ・ 持続可能なワークスタイル・ライフスタイルの実施
- ・ 空き店舗のレンタルオフィスや会議室などに利用
- ・ 少人数での行動
- ・ 短時間での消費活動
- ・ 咳エチケットとマスク
- ・ 混雑を避ける（空いている時間に）
- ・ 買い溜めをしない

## G グループ（子育て）

### ご意見

- ・新しい生活様式を柔軟に活用し、更に上尾市独自の基準を構築する
  - ①学校等の臨時休校や行事の開催の判断など
  - ②再度、休校が発生した際を想定し、ネット環境を利用した学習の構築を行う
- ・対面する必要のない相談環境の充実（オンライン相談等）
- ・学童施設の充実と教育機能の併設（ICT 施設の導入等）
- ・家庭保育の充実
- ・保育環境の見直し（人材とスペース確保へ支援）
- ・子育て運動場の設置（施設近隣に隣接したエリアの開放公的施設も交えて）
- ・感染拡大を恐れるあまり、子どもの遊びの機会が失われないよう、学校や学童、保育所の活動が、温かく見守られるように。子供が公園で遊んでいると通報されるというようなことが無い上尾であってほしい
- ・セーフティネットの強靱化…働きたくても働けない人の救済
- ・親が新型コロナウイルスにかかってしまった場合の子どものセーフティネットをどうつくるか。
- ・子どもにコロナウイルスのことをどう伝えていくのか
- ・子育て支援相談事業がどうできるのか
- ・お互いに安心できる距離感をどうつくっていくか。赤ちゃん・子どもは濃厚接触が基本にある。
- ・子育て、妊娠、出産が、より孤立化しやすい状態をどう改善していったらいいのか
- ・全国的な事であると思うが、児童虐待には迅速に対応できる地域であってほしい
- ・テレワークなどにより、子どもへの虐待やDVも増加しているというニュースを聞いている。ホームスタートや乳幼児以降の個別訪問などを充実されて事件になる前の段階への予防的アプローチを強化できるとよいのではないかと考える。
- ・その場合、専門職者である必要はなく、ボランティア等を組織し、資金面等を支援しながら行う方が望ましいと考える。
- ・利用者が構えずにすみ、ハードルが低いことにメリットがあると考えられるためである。



## Hグループ（文化・スポーツ）

### ご意見

#### 【スポーツ】

- ・正しい知識で感染を過度に恐れずスポーツを楽しむ意識の醸成
- ・スポーツは十分な距離をとって行う
- ・適度な運動を行い、体力の強化を図る

#### 【文化】

- ・オンラインでの活動発表の場づくり
- ・伝承事業等は個別化して全体での集まりを減らす
- ・再開した講座や集会の実施ノウハウの発信
- ・サークル等で部屋を使用する時は今までの半分の人数で行う
- ・検温、アルコール消毒、マスクの徹底をして入室する

#### 【共通】

- ・健康で豊かな生活を送るためのスポーツ・文化との共存を図る
- ・孤立しない様に横との連携を深める
- ・施設の利用に蜜を避ける計画
- ・日記を書く（誰にあったか記録する）
- ・新しい生活様式を踏まえてイベントの開催
- ・新しい生活様式の具体的な実践が必要
- ・自己管理、自立した市民社会、公と私の管理の確立
- ・睡眠を十分にとる
- ・無駄な外出を避ける
- ・帰宅時に手洗い、うがいを行う
- ・暴飲暴食を避ける

## I グループ（教育）

### ご意見

#### 【オンライン化】

- ・ オンライン化（不登校対策にもなるので、常に実施。そのための設備を充実させたい）
- ・ オンライン授業化
- ・ オンラインでの学習環境の整備（緊急事態だけでなく、不登校児にも対応できるような）
- ・ 子どもの学びを止めない
- ・ 1人に1台のタブレットとWi-Fi環境が無い子供への支援
- ・ 小中学生へのPC配付の早期実現
- ・ オンライン授業に不慣れな教師への支援
- ・ 電子図書館の開設

#### 【教育体制】

- ・ 教員の定数増
- ・ 学力格差を埋めるための教員の増員と心のケアのためのスクールカウンセラーの常駐
- ・ 連帯感、みんなで作り上げる達成感等をオンライン授業をした場合でも注意して盛り込む
- ・ 少人数学級を常態化（全校規模で実施）

#### 【施設整備等】

- ・ 体育館等の施設で吸排気設備の導入。または、サーキュレータ等を複数台設置して吸排気
- ・ 将来的には学校と病院が併設された施設を作る。実現困難な事例ではある、全国的にアピールはできる
- ・ フェイスマスク、消毒液、雑巾、ペーパータオル等の給付（最低限必要なものは現場の意見を参考にする）

#### 【その他】

- ・ 密でない形で集合してもらい、お互いの存在を肌で感じてもらう
- ・ 音楽会等感染が懸念されるものは今後も廃止するか縮小するか。縮小するにしても感染リスクが少なく、かつ学校に負担がかからないような方法で行う

## Ｊグループ（産業）

### ご意見

- ・ オンライン会議システム導入に関する補助金
- ・ 自転車の一層の活用の推進
- ・ 社会システムが変化するので、新しい企業活動

# 「新型コロナウイルスと共存するための必要な取組み」に関するご意見一覧

## その他ご意見

### ご意見

#### 【飯塚委員】

- ・新型コロナウイルス感染症によって変わったこととは
- \* 市民の社会参加と連帯の大切さの発見 （社会価値の再発見、つまり 1 人 1 人の行動変容が日本の命運までも左右する姿を見せつけられた。）
- \* 国家の復権と政府の役割の重要性 （グローバル化の問題点、課題、反省点を踏まえ、今回の対応を検証記録し将来への提言も含めた対策を真剣に取り組む真の政治家を選ぶ責任が市民にもある。）
- \* 企業のイノベーションと社会的存在の必要性 （マスク、医療機器、医療設備、医療人材を含めた安全保障枠組みの見直し 生産設備体制の国内回帰 人材育成など他国に頼らない体制構築が急務であり、国産製品の購入など一市民として支援する考え方も大切である。）

#### 【伊原委員】

- ・市役所での申請手続きのオンライン化を望みます。  
危機管理防災課の避難所のガイドラインや教育委員会のコロナ対策マニュアルなど一般の方向けではありませんが、よくできているので多方面で活用されては。

#### 【大澤委員】

- ・複合災害においては、避難所運営担当職員に他通常業務も必須であり、市の職員が足りないことは明らかです。  
民間との協働も必要かと思います、今後もワクチンや特効薬が量産されるまで年単位での先の長い取り組みになるので「with コロナ」の時代に「新しい様式」を入れた市民生活や行政体制が必要になるのでは無いでしょうか？

#### 【桐原委員】

- ・テレワークやオンラインによる様々なサービスが進むと、都市の価値も変わっていくのではないかと考えます。  
昼間人口が増えて街への見方や関わり方が変わっていく人が出てくることにちょっぴり期待しています。

### 【小牟田委員】

- ・ 新型コロナウイルスに限らず、感染症予防対策には日頃からの免疫力の強化が必要です。免疫力が低下すると感染症にかかりやすくなるため、日頃から免疫力をつける対策（健康管理）が必要です。

また、重篤になる原因として基礎疾患があります。基礎疾患には糖尿病、高血圧などがありますが、日頃の健康管理はこれら疾患の予防につながります。

健康管理には、「栄養（食事）」、「運動」、「休養」、「ストレスを抱え込まない」などがあります。健康講座等で、これらの知識を学び、身につけることが大切です。

### 【関本委員】

- ・ 日本の学校はあまりにも「蜜」すぎてコロナとの共存のみならず災害等に弱いと思う。教育に予算を回さなかった結果でもあるので、改善を望みたい。
- ・ 教員の定数が増えないと新しい取組みも研究もできないので、定数増が絶対必要

### 【竹村委員】

- ・ 病院や医師の数が全国で一番少ない埼玉県に住んでいることをこれほど心細く思ったことはありませんでした。なので上尾市に PCR 検査場ができたというニュースはとても誇らしく、心強かったです。

また、マスク不足の中、小中学校でマスクの種類を問わずに（白だけとか言わず）いてくれたことも心強かったです。不安が高じると不寛容な気持ちになるもので、安心できると人にも寛容であるのだと思います。感染防止に取り組みながら、正しい寛容さが市内のあちこちで見られる上尾市でありたいと思いました。

### 【中澤委員】

- ・ 今回の感染状況はマスコミでの情報のみ入手する方法であり、身近な地域における情報がほとんど少なく、例えば、市内における感染状況、市の感染防止体制など地元の危機体制状況を知る情報など少なく、不安を感じる市民が多かった。市としては、市広報の号外版により環境を周知して欲しかった。

### 【能登委員】

- ・ 学校の様々なイベントは、大幅に見直す良い機会となりました。併せて学習内容も見直す良い機会です。人の命が確実に守られるように、現在の教育内容が満杯の状態の学校現場（様々な学習内容が十分に教えられていないとされている現実）を見直すことが重要と考えます。こ

の際、本気でスリム化した学校をみんなで考えていけるといいかなと思います。

#### 【増田委員】

- ・市民一人ひとりが、それぞれの分野において（どの分野というより）厚生省より示されている「新しい生活様式」を最低限守るべきルールとして生活し、活動することが大切な事と思います。

#### 【的場委員】

- ・大都会のような大きな機能を持った密集地では、どうしても感染率が高くなっている。郊外にいてテレワークやオンラインを利用して、仕事も生活や学業の向上をある程度までこなせることが可能になった。

これまでのように通勤や通学に便利なところに居住を持たなくても郊外でゆったりと暮らすことを若い人も考えられると思う。その方向からの施策も考えられると思う。

#### 【宮田委員】

- ・コロナ禍を逆手に取り、上尾の良さを強くアピールしていきたい。

在宅ワークのできる余裕のある広さの家が比較的安価に購入できる。

上尾は大災害時の被害が少なく、より安全に子育てができる住みやすいところ。

緑も多く、休日には家族で家庭菜園も楽しめる。      とか

#### 【矢島委員】

- ・基本的生活習慣の中にコロナ対策を位置付ける。
- ・今後の危機管理の考え方を根本的に改める。

#### 【山尾委員】

- ・長年公民館で、日本語教室に関わってきたが、今までの考え方が全く通用しなくなった。マンツーマンで隣りに座り言葉だけでなく、個人的な相談にも乗ってきたが、「新しい生活様式」では、それが許されなくなった。公民館活動をするすべての団体が、試行錯誤しながら進めていくしかない。

#### 【山口委員】

- ・人の関係がつくりづらくなっている社会の状況の中、虐待やDV等身近な人間関係が大変になっている家族や親子の方がたくさんいるかもしれないと実態も分かりづらくなっているように思います。

新型コロナウイルスのことも、正しく知っていけるような取り組みが必要だと思います。特に

子供と新型コロナウイルスの関係については、あまり情報がないように思うので、子育てしている方、これから子供を持つ方が安心して産み育てることができるような情報があること、人との関係がつくられていることが大事だと思います。

#### 【PT 意見】

- ・ スマートシティを目指す
- ・ 電子会議の活用、説明会等のリモート化
- ・ I O T の環境整備
- ・ コロナ対策啓発
- ・ すでに新型コロナウイルス感染症の第二波が予測されており短期間での新型コロナウイルスの制圧はできない可能性が高いと考えられる。持久戦を覚悟した長期的な計画が必要。経済活動を自粛させるような政策は、あまり賛同ができない。